

試合番号 : 141		試合会場 : このはなアリーナ (草薙総合運動場体育館)				観客数 : 600	
開始時間 : 14:00		終了時間 : 15:51		試合時間 : 01:51		主審 : 新田 浩幸 副審 : 浅井 唯由	
東レアローズ		通算 7勝 2敗 ポイント : 20		23 第1セット 25 25 第2セット 21 25 第3セット 20 25 第4セット 21 第5セット		VC長野トライデント	
監督コメント		3		1		1勝 8敗 ポイント : 3	
要約レポート		前週からの連勝を続けたい東レアローズと、連敗を脱したいVC長野トライデントの一戦。 第1セット、両チームともサーブで相手の守備を崩そうとして攻撃を仕掛ける展開となる。VC長野・中野の連続サービスエースで12-10と一歩リードを奪うが、東し酒井のブロックで16-16の同点となる。最終、VC長野は手堅い守備から池田(幸)や三輪のスパイクで得点し、このセットを先取した。 第2セット、東しは小澤、VC長野は池田(幸)が安定したサーブレシーブで攻撃につなげる。東しは6-10からバダルのブロックと連続スパイクで4連続得点し、酒井のサービスエース、高橋のブロックで勢いに乗ると、一気に逆転。VC長野もアラウジョのスパイクで反撃するが、東しは小澤、高橋のスパイクで得点し、セットを奪い返した。 第3セット、序盤、東しは西本がブロックポイントでチームを盛り上げ、富田、バダルもスパイクを決め、リードを広げる。VC長野は東しの攻撃に食らいつき、池田(幸)、山田がブロックを決めるなど、一矢報いようとするが、東しはバダルがサーブで相手の攻撃を崩し、西本、富田がスパイクを決め、このセットを連取した。 第4セット、VC長野は中野がサービスエースでチームに勢いをつける。対する東しはレロ山口の好サーブレシーブから攻撃につなげて得点し、もつれ込む戦いとなる。東しは小澤の連続スパイクで一歩リードし15-12、バダルのスパイク、富田のサービスエースで点差を広げる。VC長野もアラウジョ、三輪が反撃するが、東しがこのままこのセットを連取し、勝利した。					
試合番号 : 142		試合会場 : エントリオ (豊田合成記念体育館)				観客数 : 1,500	
開始時間 : 13:00		終了時間 : 14:39		試合時間 : 01:39		主審 : 岡田 崇 副審 : 服部 篤史	
ウルフドッグス名古屋		通算 8勝 1敗 ポイント : 24		25 第1セット 23 25 第2セット 16 25 第3セット 23 第4セット 第5セット		堺ブレイザーズ	
監督コメント		3		0		7勝 2敗 ポイント : 21	
要約レポート		首位のウルフドッグス名古屋と2位の堺ブレイザーズの首位攻防戦。 第1セット、WD名古屋は永露のトス回しが冴え、アタッカー陣が得点を重ねる。対する堺はレシーブを繋ぎ、粘りのバレーで食らいつく。中盤、WD名古屋は高梨の連続得点で抜け出すかと思われたが、堺はバノンの出ま田のブロックでリードを許さず、終盤も熱いラリーが繰り広げられたが、最後はWD名古屋のクレクがレフトからのアタックを豪快に決め、セットを先取した。 第2セット、WD名古屋は山崎と高梨がレフトから強打を決め、堺はクイクを出ま田、松本がそれぞれ決め、このセットも好ゲームとなる。中盤以降、WD名古屋は、クレク、傳田、高梨がブロックで得点をあげると、ディフェンスが機能する。WD名古屋は終盤も、多彩な攻撃で得点を量産し、堺を寄せ付けぬ展開でセットを連取した。 第3セット、後の無くした堺は高野をスターティングメンバーに起用し、巻き返しを図る。序盤、堺はバノンのブロックなど4連続得点するも、WD名古屋は高梨のアタックなど5連続得点で追いつく。その後、WD名古屋は苦しい場面もあったが、相手にリードを許さずストリートで勝利した。					
試合番号 : 143		試合会場 : おおきにアリーナ舞洲 (舞洲アリーナ)				観客数 : 2,012	
開始時間 : 12:05		終了時間 : 14:25		試合時間 : 02:20		主審 : 本間 明 副審 : 原 啓之	
サントリーサンバース		通算 7勝 2敗 ポイント : 19		17 第1セット 25 24 第2セット 26 25 第3セット 22 25 第4セット 14 15 第5セット 13		ジェイテクトSTINGS	
監督コメント		3		2		3勝 6敗 ポイント : 11	
要約レポート		サントリーサンバースが、昨シーズンまでチームメイトだった柳田を要するジェイテクトSTINGSをホームに迎える一戦は、最終セットまで纏れる大熱戦となった。 第1セット、開始早々サントリー・ムセルスキーがアタック、影がブロックを決めれば、お返しとばかりにジェイテクト村山、柳田、ウルナウトのアタックで応戦する展開となる。中盤、ジェイテクト都築が連続サービスエースを決めると、その勢いそのまま抜け出し、このセットを先取する。 第2セット、序盤から終盤まで一進一退の攻防を繰り広げデュースとなるも、ジェイテクト村山のアタックでセットポイントを握ると、最後はウルナウトがサービスエースを決め連取する。 第3セット、後がないサントリーだが、序盤は追いかけ展開となる。しかし中盤に入り、影のブロック、藤中、アライシ、ムセルスキーがアタックを決め、ジェイテクトを取り返し、このセットを奪い返す。 第4セット、このセットで決めたいジェイテクトは福山を投入するも、サントリー、藤中(謙)の連続サービスエースで大きくリードを奪うと、一気に攻め立てセットカウントを2-2とする。 第5セット、1点を争う展開からサントリー・ムセルスキーのブロック、アタックでリード奪う。対するジェイテクトは柳田のサービスエースで詰め寄るも、最後は影がアタックを決めサントリーが勝利を収めた。					
試合番号 : 144		試合会場 : パナソニックアリーナ				観客数 : 1,456	
開始時間 : 14:00		終了時間 : 16:19		試合時間 : 02:19		主審 : 林 淳一 副審 : 木内 誠二	
パナソニックパンサーズ		通算 6勝 3敗 ポイント : 17		25 第1セット 21 23 第2セット 25 23 第3セット 25 25 第4セット 20 15 第5セット 7		JTサンダーズ広島	
監督コメント		3		2		5勝 4敗 ポイント : 16	
要約レポート		第1セット、パナソニックパンサーズは、清水を中心とした攻撃や、清水、山内の連続ブロックで終盤リードを広げる。一方のJTサンダーズ広島は、坂下の強弱をつけたスパイクや新井のサービスエースで得点を重ねるも、清水のスパイクが決まりパナソニックが先取する。 第2セット、JT広島は新井、江のスパイクやブロックで6連続得点を上げ有利な試合展開を見せるが、パナソニック深津の多彩なトスワークで相手ブロックを翻弄し1点差まで追いつける。しかし終盤は、江のスパイクが要所所で決まりJT広島が奪取する。 第3セット、第2セットの勢いそのままに、角度ある江のスパイクが次々と決まりJT広島が終始リードする。対するパナソニックは、スターティングプレイヤーに新と大竹を起用。仲本や大竹のスパイク、拾って繋ぐ全員バレーで追い上げを見せるも、JT広島がリードを守り切りセットをものにする。 第4セット、パナソニックは伊賀の好レシーブで粘り山内やクビアクのスパイク、大竹のサービスエースで一歩抜け出すと、セットカウント2-2のタイに展した。 第5セット、中盤まで一進一退の攻防が続く中、大竹のスパイクやサービスエースで一気に流れを掴むと、9連続得点をあげたパナソニックがJT広島を振り切り、大声援の中ホームゲームを見事勝利で飾った。					